

第2回 高校生の交通安全教育検討委員会の概要について

1 要 旨

11月12日（月）、第2回高校生の交通安全教育検討委員会を開催し、高校生の自転車運転に係る交通安全教育と、二輪車運転免許の取得について協議しました。

2 内 容

(1) 日 時：11月12日（月）14：00～16：00

(2) 場 所：三重県勤労者福祉会館第3教室

(3) 出席者（50音順・敬称略）

○ 委 員（11名）

- ・ 生田 昌弘 委員 日本二輪車普及安全協会中部ブロック 事務局長
- ・ 江川 真司 委員 三重県交通安全協会 安全対策課 課長
- ・ 海野 淳子 委員 三重県PTA連合会 常務理事（欠席）
- ・ 櫛田 浩哉 委員 三重県指定自動車教習所協会 会長
- ・ 倉田 利寛 委員 三重県高等学校PTA連合会 会長
- ・ 小林 亮司 委員 三重県高等学校生徒指導連絡協議会 教諭
- ・ 長谷川 敦子 委員 三重県立学校長会 監事
- ・ 平井 真 委員 鈴鹿サーキット交通教育センター 所長
- ・ 村田 享輔 委員 三重県警察本部交通企画課 課長
（代理 行村 桂 三重県警察本部交通企画課 課長補佐）
- ・ 山口 直範 委員（委員長）大阪国際大学 教授
- ・ 山田 洋一 委員 三重県小中学校長会 監事

(4) 自転車運転に係る交通安全教育について

- 県立高等学校における「自転車運転免許」を用いた交通安全指導について報告いただいた後、協議を行いました。

（報告の概要）

自転車事故が多く、二人乗りやイヤホン、並列運転など乗車マナーの課題があったことから、今年度、警察署と自動車学校の協力・連携のもと、1年生約200人を対象に実技を含む講習会を実施し、合格した生徒に対し「自転車運転免許証」を発行した。実際に免許証を持つことで、運転者としての自覚を高め、責任を持たせることができた。

○ 委員からの意見

- ・ PTAでも学校と協力して下校指導を行っているが、自転車通学生の事故も発生しているのでぜひ参考にしたい。
- ・ 交通安全教室では、危険を予測し、回避できることを重視しており、自転車運転シミュレーター等を使って体験して学べるよう工夫している。登下校時の通学路の安全指導は関係機関が協力して交通安全教育のサポーターとなれるのではないかと。
- ・ ドライバーから自転車がどう見えているかを写真などを示して子どもたちに伝えると効果があった。1年生には入学直後に指導するなど、タイミングを逃

さず指導すると効果が高い。

- ・ 限られた時間の中で、質の高い、生徒の記憶に残る交通安全教育をすすめなければならない。ルールや技術の指導に留まらない、ルールを守るという規範意識を育てることが重要である。
- ・ 自転車運転者が歩行者にケガを負わせる事故が全国的にも増えていることから、加害者となった場合の責任の重さを伝えることが大切である。
- ・ 生徒の発達に応じた指導が大切であるので、どの時期にどのような指導を行うのが効果的かなどをわかりやすく示したものがあるとよい。
- ・ 指導のノウハウを持っている関係機関が協力して、学校側へ具体的な指導プランを提供できるとよい。年に複数回の指導機会を持つのがよい。

(5) 二輪車運転免許の取得について

○ 委員からの意見

- ・ 保護者としては、現在の「三ない運動」を引き続き推進したいと考えている。16歳から二輪車の免許が取れるが、身近に「二輪車の免許を取りたい／取らせたい」という声も聞かない。大半の生徒は、18歳に車の免許を取ることもあり、親の気持ちとしては16歳で無理に取らせなくてもと思う。
- ・ 「免許を取らせて指導する」という他県の例もあるが、二輪車は自覚と責任をもって乗らないと危険。通学等で必要ならば保護者と学校で判断して認めていけばよいのではないか。自動車免許取得の講習でも、限られた時間で規範意識を育てるのは難しい。社会に出てからもなお、意識を高め続けられるよう教えていくことが重要である。
- ・ 16歳の段階で、免許を取らせることに危険を感じており、生徒が一人でも二輪車で命を失うことのないようにしていきたい。
- ・ 他県で二輪車通学者に対して、安全運転講習を行った。講義や実技をしっかりと行うと交通安全の意識も高まった。通学が不便な生徒には、免許を取らせてやってほしい。
- ・ 例えば、自転車免許も他県の例のように取り消しや停止があるとライセンスを持つものとして生徒の自覚が生まれ、保護者の意識も高まる。二輪車や四輪についても、日ごろから保護者が交通安全の意識をもって子どもにかかわることが大事である。
- ・ 無断で免許を取得する生徒もいるなかで、免許取得を認めると大勢が乗ってくるのではないかと危惧される。
- ・ 生徒の命を守るために危険から遠ざけるという考え方もあるが、高校生の期間は系統的に全員が交通安全について学ぶ事のできる時期である。「三ない運動」が始まったころに社会問題であった、暴走族も今の若者はほとんど関心を持っていない。次回は二輪車免許取得の良い面も見ながらさらに意見を出してもらいたい。

3 今後の方向

第3回の検討委員会は、12月17日（月）に開催し、引き続き、高校生の二輪車運転免許の取得と、卒業後に運転者となることを踏まえた交通安全教育について検討します。